

第 65 回 卒業式 学長式辞

2021. 3. 13 学長 西内みなみ

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今日の良き日は、皆様にとって特別な記念日となります。

新型コロナウイルス感染が収束しない中、この卒業式だけは、どうぞ挙行できますようにと、私たち教職員は、毎日、毎日、祈っていました。10年前、2011年の卒業式は、挙行できませんでした。なぜなら、卒業式の前日が、あの3.11だったからです。短大は仮設の避難所となり、本当に辛く悲しい思い出が、記憶に強くに刻まれています。

今年度は、政府の緊急事態宣言と福島県の緊急事態措置を受けて、前期の授業開始が、予定より1か月遅れた5月11日(月)になりました。最善を尽くして様々な感染予防対策を徹底しながら、5月は原則としてインターネットによる遠隔授業を実施しました。インターネットによる画面越しに皆さまの顔が見られたときは、教職員一同ホッとしました。また、そこに映る皆さまの笑顔も安心していることがよく分かりました。6月からは、通常の対面授業に徐々に移行し、7月からは、ほとんどの授業を対面で実施できました。学長室にも聞こえて来る皆さまの明るい声に、本当に励まされました。

10月1日から始まった後期の授業も、原則として対面での授業を行い、途中、学外での感染者が1名出ましたが、何とか年度末まで対面授業で終えることができました。

三密防止や外出自粛、限られた条件の中でも、皆さまは「まなび」と「つながり」を本当に大切にしてくださいました。

皆さまにとっての1年間は非常に貴重な時間であり、その時間を実りあるものにしたいと私たちは願いました。今、震災の時のように、「他者のために生きる」という人間の本質に立ち返ることが求められています。自分が感染しないためには、他者への感染を確実に防ぐ必要があります。なぜなら、いつでも、どこでも、誰でも感染する可能性があるからです。

私たち全員が「次世代の利益」を大切にする必要があります。誰もが地球市民として、「次世代の利益」となる行動をとることができれば、パンデミックという深刻な危機に直面した今こそ、それが希望となるからです。

この危機的状況で、皆さまが、様々な工夫を凝らして実現して下さったあかしや祭は、まさにその希望を形にしたものでした。私たちはとても感動し、皆さまから勇気と元気を頂きました。本当にありがとうございました。

コロナ禍でも、皆様が互いに愛し合うことによって、建学の精神である「愛と奉仕に生きる良き社会人」になることを実践的に学んでいることが、よく分かりました。

この2年間、私たち教職員に、皆様の成長を共に喜ぶ幸せを頂いたことに、心から感謝します。また、多くの皆様が、たくさんの資格と免許を取得されました。本日は、極めて成績優秀・品行方正であった方を、皆様の代表として表彰させて頂きました。

こうした見える学習成果を得るための皆様の努力には、はかりしれない価値と意義があります。生涯、自分自身の誇りとして大切にしてください。この2年間で、それだけ努力されたという証です。そして、それは、ご支援させて頂いた教職員の誇りでもあります。

桜の聖母短期大学は、学生一人ひとりが、喜び、賛美し、感謝することを学ぶ、聖母マリアの学校です。皆様が手にされた学位、資格、免許そして表彰を、ご自身の誇りにして頂くのと同時に「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、これからも誰かのために役立ててください。それが、今日まで、皆様と共に、喜び、賛美し、感謝してきた私たち教職員一同の希望です。

卒業生の皆様、今日という日は、これまでの人生の到達点であると同時に、これからの人生への出発点でもあります。これまでの人生への感謝と、これからの人生への希望を胸に、桜の聖母短期大学という学び舎を巣立って下さい。

そして、これからの人生という大海原で、お幸せな時、嬉しい時、楽しい時は、桜の聖母短期大学の事を忘れていて下さい。しかし、あなたの人生で、苦しい時、辛い時、悲しい時には、母校である桜の聖母短期大学のことを思い出して下さい。そして、何時でもいらして下さい。卒業生になられる皆様を、両手を広げてお迎えできる母校で在り続けることをお約束いたします。

保護者の皆様、高いところから、たいへん恐縮ですが、大切なお嬢様のご卒業、おめでとうございます。お嬢様のご卒業まで、多大なるご支援を賜りました保護者の皆様に、深く感謝します。ありがとうございました。

桜の聖母短期大学は、地域に深く根ざし、創立者聖マルグリット・ブールジョワの心をたずねながら、教育いちずにと「小さな単純な歩み」を続けます。人々から必要とされる「小さくとも教育で輝く」学校で在り続けます。

卒業生の皆様とそこご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。